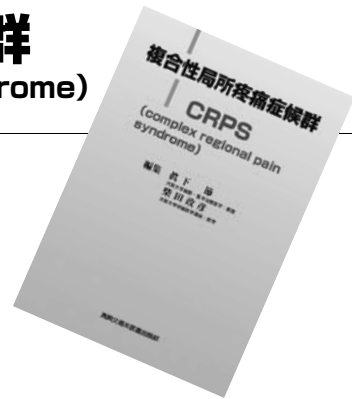


# 複合性局所疼痛症候群 CRPS (complex regional pain syndrome)



CRPS (complex regional pain syndrome : 複合性局所疼痛症候群) は临床上、その診断・概念の把握に混乱をきたしている疼痛性疾患である。その大きな理由は、本症の病態が複雑であり、症状に経時的な変化も加わったり、診療科によってその診かたが異なっていたこと、さらに治療法においてもさまざまな方法がEBMに関係なく漫然と行われていたなどが挙げられる。本書はそれらの問題に正面から取り組みCRPSの本態に迫ったものであり、現時点における本症に関する最も適切な教科書と思われる。

CRPSは当初、RSD (reflex sympathetic dystrophy : 反射性交感神経性萎縮症状) と呼ばれたが、必ずしも交感神経の関与があるとは限らないことなどから現在の名称であるCRPSになっている。これら本症の名称や病態の概念の捉え方の推移を理解することも本症を理解する上で非常に重要であるが、本書では、まず本症の歴史、分類、疫学が述べられており、これらの章を読むことにより本症が歴史的にどのように捉えられてきたかが理解できる。

CRPSの病態と症候の項では、感覚と認知機能、自律神経、運動、ジストニア、萎縮と拘縮、情動そして皮膚温と骨萎縮の検査所見につき文献を挙げて述べられている。本書の特徴は各項目別に必ず文献が添付されていることであり大変参考になる。

次に診断の項では、歴史的な診断基準の変遷が記載された後、編者の眞下氏、柴田氏が中心となって2005～2008年の3年間に行った厚生労働省CRPS研究班による全国規模の疫学的臨床研究から作成した本邦独自のCRPS判定指標が記載されており、今後この指標が広まることにより本症の診断がきちんとなされることが期待される。

CRPSの典型例、類縁・類似疾患についても記載されていることは、本症の診断に大いに役立つと思われる。類縁・類似疾患にはこれまでCRPSと診断されることも稀ではなかった肩手症候群、腕神経叢引き抜き損傷、線維筋痛症、

- ・ 真興交易(株)医書出版部
- ・ 2009年9月25日 第1版第1刷発行
- ・ A5判/252頁/並製本
- ・ 定価(本体4,900円+税)
- ・ ISBN 978-4-88003-833-9

疼痛性障害・転換性障害・虚偽性障害および詐病が挙げられている。とくに心身医学的な病態は治療スタッフが最も診断に苦慮するものであり、これらの疾患を疑う際の考えかたのポイントが挙げられていることは臨床上大変に役立つものと思われた。

本書はまたCRPSの研究にも触れている。動物モデルによる研究、患者・ヒトによるものを挙げ、最後に現在の発症メカニズムについて仮説を挙げ、その中で炎症、疼痛情報処理の脳機能ネットワーク変化、およびCRPSを発症しやすい患者群として遺伝子の背景の関与、および性格との関連につき述べられている。

治療の項には現在用いられているほとんどすべての治療法について触れられている。なかでも「エビデンスのある治療法」として項目が設定されてあるので治療の際に大いに参考となるう。

そのほかの項として、各科からみたCRPS、経過と予後、さらに臨床上治療者が悩まされる後遺障害認定についても述べられており、大変参考となるものである。

以上、本書は現時点においてCRPSをめぐるさまざまな課題を網羅しており、本症を診るすべての医師の必読書と確信する。

小川 節郎

(日本大学医学部麻酔科学系)